

神奈川労連2002年度

第8回幹事会

次第

日時：2003年3月1日（土）10時～16時

会場：建設プラザ 4階 会議室

〈出席確認 33名中 名出席〉

菊谷、伊藤、植木、岡本、片野、鈴木、高橋、渡部、水谷、澤田、山田、蛇川、行武
 上杉、大石、大和田、勝又、加藤、菅野、河野、近藤、佐藤、鈴木（女性部）、鈴木、須田
 塚原、塚本、藤田（通信）、藤田（私教連）、松岡、松本、溝口、村瀬（半日、欠席）

1. 経過報告

2. 財政報告

3. 討議事項

【1】03国民春闘と県知事選挙の情勢・行動の具体化

【2】日立と東芝争議問題の見解・対応

（1）日立争議申立て人 宮崎氏の文書「真の団結を求めて－日立争議からの経験から」に対する神奈川労連の態度と見解について

（2）東芝争議問題について

- ① 東芝貸金差別提訴団への質問 ー02年12月
- ② 同 について（回答）ー03年2月5日
- ③ 東芝提訴団の回答に対する見解 ー03年2月13日

【3】全労連組織拡大基金提案と3・4・5月拡大月間

【4】主な行動・会議、その他

（1）幹事会・評議員会・大会日程

第9回幹事会は4月2日（水）18時30分から21時 未定

◆第10回幹事会5月10日（土）、第11回6月7日（土）、第12回7月5日（土）

◆第13回幹事会は7月26日に前回変更確認

●第2回評議員会は5月17日（土）10時から16時

（2）企画委員会日程（原則第2・第4木曜日13時30分～）

第13回は3月18日（木）13時30分～17時

以上

- ③ 各単産は組合員数の20倍を各単産「対話」目標の基本とする
- ④ 「対話」の点検は3月3日から月・木曜日、3月24日以降は連日点検

- (3) 3月9日藤沢、15日港南区、21日保土ヶ谷区の重点区宣伝は必ず成功させる
- 3月 9日(日) 12時に藤沢駅サンパール広場集合と宣伝(その後湘南建設に移動)
- * 12時に「吉村せいこ」県知事擁立候補が藤沢駅に来て宣伝!
- 15日(土) 港南区(横浜市) 13時上大岡第一町内会館集合
- * 京浜急行・地下鉄「上大岡駅」下車3分
- 21日(金:祝日) 保土ヶ谷区(横浜市) 13時集合(会場近日通知)

行動内容

宣伝カー約10台に5～6人分乗して、駅頭や繁華街、団地などで宣伝行動。演説原稿、のぼり旗、「明るい神奈川」宣伝ビラ、ジャケット(ショッキングピンクのリボン)、宣伝カーなどの手配は県労働者の準備。

各地域では、約10コースの駅頭・繁華街・団地などの宣伝箇所地図を用意。

* 擁立候補の「吉村せいこ」さんも参加する予定ですので大規模に成功させる。

●参加要請: *是非、要請人数確保に積極的なご協力を!

建設労連30、自治労連20、全国一般10、医労連・年金者・JMIU・建交労・生協労連・国公共闘5、自交総連・私教連・港湾労組3、通信労組・福祉保育・化学一般2、全印総連・郵産労・銀産労1、横浜・川崎5、各地域労連・地区労1。

* 男女、青年の人たちの積極的な参加を是非お願いします。

●宣伝カーの要請(10台は確保する!)

横浜市従(本部・建設・衛生)、県職労(本部・各支部)、建設労連・神奈川土建(本部・各支部)、浜建労、生協労組などに是非要請します。

- (4) 駅頭宣伝は告示前の3月6日(木)、13日(木:夕方各地域重点駅頭)、告示後の28日(金)、4月3日(木)。大企業と国・自治体の庁舎前宣伝を3月20日(木)におこなう。
- (5) 労働組合で積極的に取り組める選挙なので、神奈川労連傘下の全ての支部分会・班の推薦決議運動を早急に徹底し、一人20人を目標に「対話」を大胆に広げる。
- (6) 神奈川労連以外の組合にも推薦要請、対話活動を旺盛におこなう。
- (7) 神奈川労連傘下のすべての宣伝カーにエンドレステープを配布して、宣伝カーを毎日街に繰り出して、「せいこ」旋風をふかせる。
- (8) 選挙資金カンパは、目標どおり各単産・地域で早めに集める。
- * 2月10日(1～2割:とりあえずの立替払いを)、2月26日(6割)、3月26日(100%納入)
- (9) その他

2. 日立と東芝争議問題の見解・対応 47～49

1. 日立争議について「神奈川労連の見解と対応」

* その後の状況 2月15日～16日支援共闘総括会議、その他

2. 東芝提訴団の回答に対する「見解」を2月13日の企画委員会で確認・送付
① 東芝賃金差別提訴団への質問 - 02年12月
② 同 について(回答) - 03年2月5日
③ 東芝提訴団の回答に対する見解 - 03年2月13日
* その後の状況 質問状・回答・見解を単産などに持って回っている。* 千葉
(千葉県労連には「高橋議長」名で署名要請をしている)

3. 神奈川労連「争議対策」策定作業
* 7月評議員会に間に合わせる(起案者: 高橋、水谷)

3. 全労連組織拡大基金提案と3・4・5月拡大月間

- 【1】全労連組織拡大基金の提案内容について
1月23日～24日全労連第32回評議員会で予備提案(7月評議員会で決定)

【2】全労連組織拡大基金問題と組織拡大月間(3月4月5月)

- (1) 神奈川での「組織拡大基金と組織拡大運動」方針づくり

(2) 春の拡大月間(3月4月5月)

- ① 建設労連(神奈川土建) 2月と3月が拡大月間(別紙に「拡大速報」)
2月28日現在1,140名拡大(達成率22.89%)
② 神奈川労連3月4月5月が拡大月間で目標は1万人(5000人定着)
次回第7回組織局会議は3月25日(拡大計画と拡大推進) 早稲
③ 各単産と地域労連(地区労)でも拡大月間を拡大計画をもって進める
④ 横浜駅東口相談活動と宣伝の日程 6月28日(土)

4. 主な行動・会議、その他

- * 別紙に「3月の主な行動・取組み要請」
* 第2回メーカー実行委員会(3月18日18時)

以上

日立争議申立て人 宮崎氏の文書「真の団結を求めて―日立争議の経験から」に対する神奈川労連の態度と見解について

〇3年3月1日

神奈川労連第8回幹事会

1、1月24日、日立争議の申立て人であり日立神奈川争議団団長の経験もある宮崎良司氏が神奈川労連事務所に来所し、「真の団結を求めて―日立争議の経験から」の文書が示されました。この文書は日立支援共闘、争議団の内容が生々しく記載されています。記載されている事実関係について検証し、団結キャンプや「秘密会議」など参加していた人たちから、その実態、事実が報告されています。

2、日立神奈川争議問題については、2001年5月9日神奈川労連第15回幹事会において「神奈川労連の争議に対する基本的態度と『日立闘争支援共闘』の問題」について確認し、その後の神奈川労連評議員会、大会で確認し、対応してきました。

私たちは、日立神奈川支援共闘会議が人権侵害と差別に反対する争議団としてとるべき態度について指摘をしました。

- ① 総会の開催など民主的運営をおこなうこと。
- ② 要求の一致に基づき一都二県との統一と団結を重視すること
- ③ コーカルセンターとしての神奈川労連と団結と合意をはかること、不当な全労連・神奈川労連攻撃を止めること。

私たちはこれらのことについて反省と改善を求めました。しかし、改まらなかったで日立神奈川支援共闘からの離脱せざるをえませんでした。宮崎氏の「文書」は神奈川労連幹事会の「指摘」と「決定」を裏付けるものとなっています。

3、宮崎氏の「文書」はなにを明らかにしているのでしょうか。

- (1) 日立神奈川支援共闘一部役員による誤った指導（支援共闘論）で、日立神奈川争議が進められていたことが赤裸々に語られています。

人権侵害と差別に反対する争議団としてはあるまじきことです。

支援共闘会議の方針に異なる意見を述べ従わない人に対して「糾弾、つるし上げ、排除」が行われていた実態が明らかになっています。神奈川労連から派遣された代表委員が「人権侵害」の中心的な役割を担っていたことは残念なことであり、驚くべきことです。

- (2) 「支援共闘会議」を唯一、絶対の争議指導機関とする誤った「方針」

を押し付けることが不団結を作り出した要因です。闘争の重要な段階でも支援共闘会議の総会を開かず、限られた人たちで指導するという非民主的な運営が不団結を拡大しました。原告団の一致した意見についても支援共闘会議の方針を優先し、原告団の反対者を排除するということが行われてきました。

(3) さらに、神奈川の反「合」権利闘争を過信し思い上がった個人指導の「支援共闘」方式や争議運動を絶対化し、ナショナルセンターとしての全労連の役割を否定し、東京・愛知・茨城の労連や労働運動、民主勢力などとの連携を否定するという態度をとりました。全労連や東京労連などとの対立をあおり、労働運動に亀裂をもたらそうとしました。さらに、神奈川労連が日立神奈川支援共闘の意向にそわないからと、神奈川労連批判を展開しました。労連内の単産・組合、地域組織に不団結を持ち込もうとしています。

(4) 神奈川労連から派遣していた代表委員が支援共闘の中心的役割を果たしていました。彼は、神奈川労連退職後も、支援する会から推薦された代表委員として争議にかかわっていました。彼の在任中の行動について、宮崎「文書」であきらかになったことが多くあります。特に、驚いたことは長期間に渡って彼を中心に個人的に集めた「秘密グループ」が、ほぼ毎月定期的に会合を持ち、隔月に泊り込み会議を行っていたということです。会合の内容は主に、県内の争議運動と反合権利闘争にかかわる各組織（地労委民主化対策会議、争議団、連合職場連絡会）の人事を含む対策が話し合われていました。このことは、神奈川労連には一切報告されず、すべて秘密裏に行われていたことです。

(5) 彼が神奈川労連とは別に派閥組織(秘密組織)をつくり、争議運動、反合権利闘争を指導していたことは、きわめて、異常なことであり、神奈川労連役員としての資格を問われる問題です。労働運動や争議運動に対する悪いイメージをつくり、階級的ローカルセンターの役割発揮と機能に対する信頼を損なう階級的なローカルセンターへの背信行為です。

(6) 私たちは宮崎氏の「文書」の重みを受け止めます。神奈川の労働運動、争議運動にとって、放置できない問題であり、今後とも、事実解明をおこない、問題を掘り下げていく課題です。

4、人権侵害、差別争議として闘われ、民主主義を勝ち取る争議が、支援共闘により、争議団内に差別といじめを押し付けるやり方は、糾されなければなりません。差別と闘い、解雇撤廃を求めて闘っている仲間の「争

議に勝りたい」気持ちを利用し愚弄するものです。

不当な差別や解雇と闘う仲間の要求を支持しより多くの支援が結集できる争議運動が求められています。神奈川労連として二度とこのような事態が起きないよう日立争議を教訓に争議運動の前進を図っていくことを表明します。